

# CASBEE®新潟 | 評価結果 |



- 使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアルv.4.0、CASBEE-建築(新築)2016年版
- 使用評価ソフト: CASBEE新潟v.4.0.1

## 1. 建物概要

建物名称	(仮称) 万代・宮浦乳児保育園及び東地域保健福祉センター	
建設地	新潟県新潟市中央区	
用途地域	近隣商業地域、準防火地域	
建物用途	事務所、学校	
竣工年	2020年2月 予定	
敷地面積	4,039.44 m <sup>2</sup>	
建築面積	1,146.68 m <sup>2</sup>	
延床面積	2,791.67 m <sup>2</sup>	
階数	地上4F	
構造	RC造	
評価の段階	実施設計段階評価	
評価の実施日	2018年3月15日	

## 2. CASBEE新潟の評価結果

	A	$BEE = \frac{Q \text{ 建築物の環境品質}}{L \text{ 建築物の環境負荷低減性}} = \frac{63.5}{41.5} = 1.5$
S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★		

## 3. 新潟市の重点項目の評価

重点項目	平均スコア	評価	項目	スコア
1. 長寿命化の取組み 建築物を長く、安心・安全に使い続けるために	4.0		バリアフリー計画	4.0
			維持管理	4.5
			設備の更新性	3.4
2. 地震への取組み かけがえのない人命、財産を守るために	3.9		耐震・免震・制震・制振	3.8
			信頼性	4.0
3. 大雨への取組み 大雨に強いまちづくりのために	3.0		雨水排水負荷低減	3.0
4. 自然エネルギー利用の取組み 地球温暖化対策のために	4.0		建物外皮の熱負荷抑制	5.0
			自然エネルギー利用	3.0
5. 資源循環の取組み 持続可能な循環型社会づくりのために	4.3		節水	4.0
			躯体材料以外でのリサイクル材の使用	4.0
			部材の再利用可能性向上への取組み	5.0
6. 水と緑を活かす取組み 豊かな自然環境を次世代に引き継ぐために	3.0		生物環境の保全と創出	3.0
			敷地内温熱環境の向上	3.0
7. 新潟のまちなみへの取組み 地域の個性や魅力を活かしたまちづくりのために	4.5		まちなみ・景観への配慮	4.0
			地域性への配慮、快適性の向上	5.0

## 4. 新潟市の重点項目の配慮事項

- 移動等円滑化基準に適合せさせ、メンテナンスバルコニーを設けることにより長寿命化の取組みに配慮した。
- 耐震性25%増しを確保することにより地震への取組みに配慮した。
- リサイクル資材や節水型の器具を積極的に採用することにより資源循環の取組みに配慮した。
- ピロティ・庇の設置や緑化ブロック駐車場の整備により敷地内の温熱環境の向上を図り新潟のまちなみへの取組みに配慮した。

# CASBEE®新潟

## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアルv.4.0、CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE新潟v.4.0.1

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)万代・宮浦乳児保育園及び東地域保健福祉センター	階数	地上4F
建設地	新潟県新潟市中央区	構造	RC造
用途地域	近隣商業地域、準防火地域	平均居住人員	XX 人
地域区分	5地域	年間使用時間	XXX 時間/年(想定値)
建物用途	事務所、学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年2月 予定	評価の実施日	2018年3月15日
敷地面積	4,039 m <sup>2</sup>	作成者	坂井隆昭
建築面積	1,147 m <sup>2</sup>	確認日	
延床面積	2,792 m <sup>2</sup>	確認者	菅原真司



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.5**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>温暖化影響チャート

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q 環境品質** Q のスコア = 3.5

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.2

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.7

#### Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 3.7

**LR 環境負荷低減性** LR のスコア = 3.3

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.3

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.2

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.4

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b> 高層建物に囲まれた本敷地の日照条件に対し、採光を最大限に確保できる建物配置としています。また、敷地西側にある万代公園は広場を中心に植物に囲まれた自然豊かな環境であり、災害時の一時避難所にも指定されており、自然環境面及び防災面において連携のとれる計画としています。		<b>その他</b>
<b>Q1 室内環境</b> 外部建具には複層ガラスを採用し、西面の直射日光が当たる面にはLOW-E複層ガラスを採用。F☆☆☆☆建材を使用。	<b>Q2 サービス性能</b> ゆとりのある執務スペースを確保。建築物移動等円滑化基準に適合。内装材として安全・衛生・耐久面に配慮。バルコニー設置により外部メンテナンスの容易性に配慮。	<b>Q3 室外環境 (敷地内)</b> 周辺の景観に配慮すると共に、敷地内の緑化率の確保、ピロティ・庇の設置により暑熱環境を緩和。
<b>LR1 エネルギー</b> 外皮性能の強化、複層ガラス・LOW-Eガラスの採用、庇・バルコニー設置による熱負荷を抑制。LED照明採用等によるエネルギーの高効率化。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> 自動水栓の採用。節水型器具の採用。躯体以外への特定調達品目・エコマーク材料の採用。	<b>LR3 敷地外環境</b> 風下地域への風通しに配慮した建物配置。緑化ブロックやインターロッキングの採用により敷地外への熱的影響を低減。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される